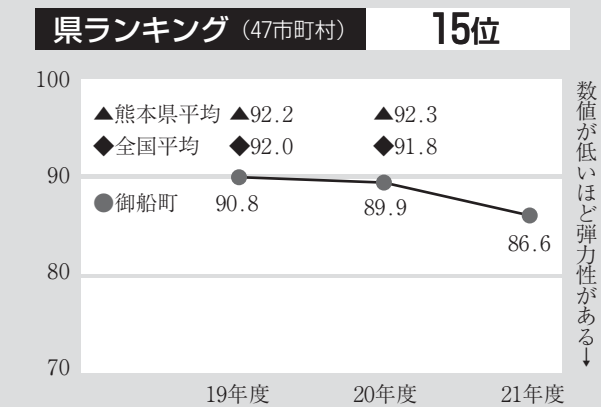


残金 経常収支比率

経費削減と税収向上が不可欠

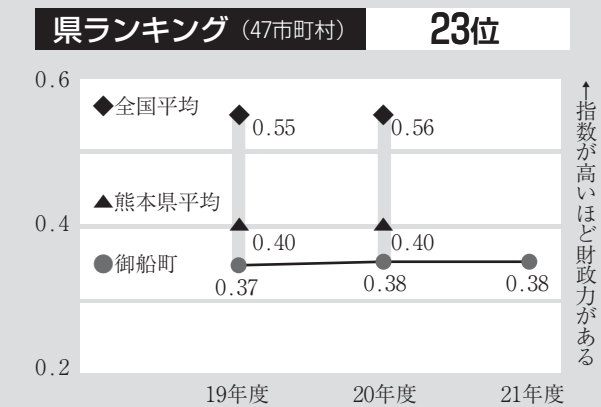
経常収支比率は、市町村が自由に使えるお金（財政構造の弾力性）を示す数値です。経常収入（町税、普通交付税など一般財源）で収支均衡が正常に保持されているかを判断します。町村では、70%以下が望ましいとされています。町では毎年下降しているものの、県内平均も含めて、依然として高水準です。引き続き、消耗品費や光熱費、人件費など義務的経費の削減、税の収納率向上が必要です。



体力 財政力指数

県平均を下回る財政基盤の弱さ

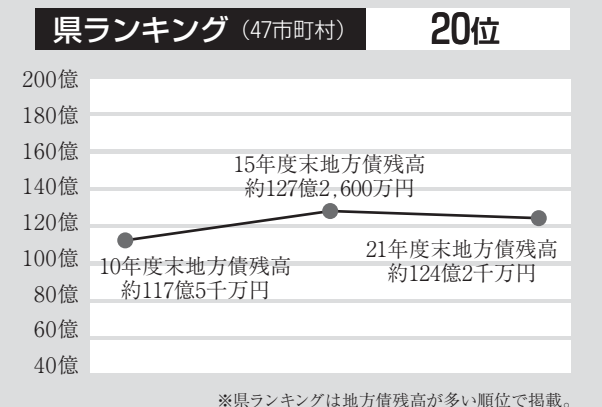
財政力指数は、市町村の体力（財政能力）を示す数値です。数値が高いほど、財政力が強固で積極的な行政活動が可能とされ、1.0を超えると国からの地方交付税が不交付となります。町では毎年上昇傾向にありますが、県内平均を下回る状況が続いています。この背景には、景気低迷や町内に中心産業がないことで財政基盤が弱いと考えられ、企業誘致などが求められます。



借金 地方債（町債）

借金残高は約124億 2 千万円

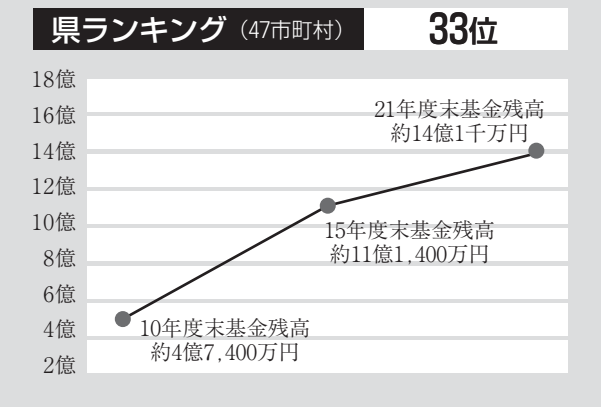
町には、一般会計や下水道事業、水道事業、緑の村運営事業などの地方債があります。地方債は、事業ごとの借金で、ローンを組んで毎年返済しています。21年度末借金残高は、約124億2千万円となっています。町民一人あたりに計算すると、約68万円の借金を背負っている計算です。下水道事業と水道事業は、13年度をピークに緩やかな減少傾向となっています。



貯金 基金

貯金残高は約14億 1 千万円

町には、財政調整基金や地域福祉基金、ふるさと応援基金など、6項目の基金があります。基金は、目的に応じて利用できる貯金です。21年度末貯金残高は、約14億1千万円となっています。町民一人あたりに計算すると、約7万7千円の貯金が溜まっている計算です。10年度末残高の約4億7,400万円から、約10年間で約10億円の貯金をコツコツと積み立てています。



健康 財政健全化判断比率

借金返済と負債残高がやや不健康

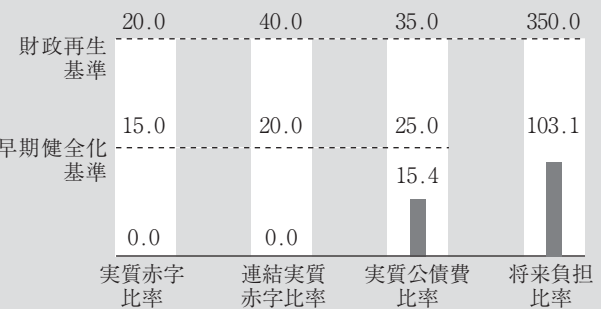
財政健全化判断比率は、市町村財政の健康状態をみる数値です。数値が早期健全化基準を上回ると、財政健全化計画を作り、実施状況の報告や公表が必要となり、財政再生基準に達すると国の管理化におかれ、市町村でお金が自由に使えなくなります。

【実質赤字比率】……普通会計の財政運営からみる赤字額の比率。

【連結実質赤字比率】・すべての会計の財政運営からみる赤字額の比率。

【実質公債費比率】…借金の返済額などの割合をみる比率。

【将来負担比率】……町の負債残高から将来財政への圧迫度をみる比率。



〔参考資料〕総務省「財政比較分析表」

稼げるお金の町税や負担金、利用料など自主財源の割合が低く、財政力は高くありません。そのため、国からの仕送りに頼った状態が続いています。国から仕送りが少なくなれば、財政への大きな影響が心配です。そのためにも財政基盤の強化を図る意味で、企業誘致の推進や町税の収納率アップが重要といえます。最後は経常収支比率です。家庭でいう食費や光熱水費などの生活費を引いた残りのお金がいくら自由に使えるかを示すものです。ここ数年は、生活費を切りつめたことで、自由に使えるお金が増えていますので、さらに賢い節約が望まれます。

赤字にならないための工夫

財政状況を分野ごとに見てみると、自ら稼げる収入と貯金が少なく、支出と借金が少々多い家計のため、ゆとりがないように感じます。しかし、財政健全化判断比率では、すべて早期健全化基準を下回り、今のところ財政運営に黄色信号は点灯していません。この背景には、17年度から踏み切った「行財政改革」によって、財政赤字を出すことなく、現在まで財政運営が行われているためです。これからの財政運営は、「行財政改革」の推進が重要なポイントとなりそうです。

収入アップと賢い節約

御船町の平成21年度決算は黒字となり良好な状態でしたが、果たして財政力（家計）は本当に大丈夫なのでしょうか。そこで、町の貯金や借金などをみて考えていきます。

まず、基金からです。毎年少しずつ貯金積立をしてきた結果、21年度末残高は約14億1千万円まで増やすことができています。

しかし、これから御船小学校建替事業や都市再生整備計画事業などの大型事業が見込まれ、財源不足が発生する可能性も考えられます。いざ家計のやりくりに困った時に取り崩されるの

財政の現実

生活設計

徹底分析 財政力を問う。

わたしたちは日常生活の中で、毎月の収入から生活費やローン返済、貯金などをバランスよくやりくりして、生活設計を立てています。実は御船町も同じなのです。まちづくり設計のためにお金をやりくりしています。それでは、その中身を一緒にのぞいて見ましょう。



が基金です。財源不足の発生に備えて、より多くの基金積み立てがあれば安心といえます。

続いて、地方債です。公共施設や道路、下水道などの設備投資には巨額のお金が必要となり、その都度、国や銀行などからお金を借り入れています。21年度末残高は約124億2千万円ですが、返済も順調で年々減少しています。

今後、短期間に設備投資が集中すれば、借金はまた膨れあがります。そこで、なるべく緊急性の低い事業は後年度へ先延ばしするなどの工夫が必要といえます。

次に財政力指数です。御船町は自ら